

〔論 説〕

教職課程に求められる資質・能力を育む授業力育成に関する研究 ～本学教職インターンシップでのアンケート調査分析を通して～

近藤真唯, 永井克昇, 沖塩有希子, 川崎知巳

1 研究の背景

1-1 「学校インターンシップ」と本学「教職インターンシップ」

中央教育審議会初等中等教育部会では、平成27年12月「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の答申が取りまとめられた。答申では、「教員が多様な専門性を持つ人材等と連携・分担してチームとして職務を担うことにより、学校の教育力・組織力を向上させることが必要であり、その中心的役割を担う教員一人一人がスキルアップを図り、その役割に応じて活躍できるよう環境整備を図ることが重要⁽¹⁾」とされ、アクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメント、学習評価の改善などに必要な力を「学びの専門家」である教員に備えさせることの重要性が述べられている。教員養成に関する方向性についても述べられており、そこに取り上げられているのが「学校インターンシップ」である。「学校インターンシップ」とは、教職課程の学生が学校現場において教育活動や校務の支援、補助業務などを体験する取り組みであり、既存の教育実習とは異なる。この体験を通して、教職課程の学生は「長期間にわたり継続的に学校現場等で体験的な活動を行うことで、学校現場をより深く知ることでき、既存の教育実習と相まって、理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効⁽²⁾」な学びができるとされており、今後の教員養成において非常に重要な体験活動であると考えられる。

本学商経学部教職課程では、商経学部での学びと教職課程での学びを通して、幅広い教養と高い専門知識・技術とともに、教員にふさわしい資質、能力と豊かな人間性を兼ね備えた教員志望の学生を育成することをめざしており、特に教科商業科教員を毎年全国に輩出していることから、学生個人としての資質・能力を育成するだけでなく、教員としての資質・能力を育む「授業力」育成を進めていく必要がある。そこで本学部では、船橋市立船橋高等学校(千葉県)との間で高大連携協定を結び、2ヶ月にわたる本学部版学校インターンシップである「教職インターンシップ」を実施している。

本研究では、教職インターンシップ参加学生および指導いただいた高等学校教員に実施したアンケート調査を通して、教職インターンシップ実施による資質・能力育成への効果を分析するとともに、資質・能力を育む授業力育成に関する提案をすることとする。

(1) (2) 中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)」,平成27年12月21日

1-2 教職インターンシップの概要

2015年度から開始された教職インターンシップは、教職科目として設定されておらず、大学卒業後の進路として商業科教員を強く志望している学生が任意で参加している。2016年度の参加学生は3年生6名、4年7名、合計13名が参加しており(表1)、高校側から提供された時間割を基に各自がスケジュールを計画、授業補助やジョブシャドウイングなどの実践を行っている。学生が担当する授業数については、学生あたり週平均3.85時間(単位時間50分)、最大授業数は45時間、最大活動日数については14日間となっている。(表2・3・4)

表1 2016年度教職インターンシップ参加者数

度数

		教職インターンシップの経験		合計
		経験なし	経験あり	
学年	3年	6	0	6
	4年	5	2	7
合計		11	2	13

表2 2016年度教職インターンシップ参加学生の担当授業数

			学年		合計
			3年	4年	
担当授業数	ビジネス基礎	度数	0	2	2
		% 合計	0.0%	15.4%	15.4%
	総合実践	度数	2	6	8
		% 合計	15.4%	46.2%	61.5%
	マーケティング	度数	3	4	7
		% 合計	23.1%	30.8%	53.8%
	経済活動と法	度数	2	1	3
		% 合計	15.4%	7.7%	23.1%
	簿記	度数	6	6	12
		% 合計	46.2%	46.2%	92.3%
	財務会計 I	度数	0	1	1
		% 合計	0.0%	7.7%	7.7%
	原価計算	度数	0	1	1
		% 合計	0.0%	7.7%	7.7%
	情報処理	度数	1	6	7
		% 合計	7.7%	46.2%	53.8%
	電子商取引	度数	1	5	6
		% 合計	7.7%	38.5%	46.2%
	学校設定科目(ビジネス情報分野関連)	度数	1	2	3
		% 合計	7.7%	15.4%	23.1%
合計		度数	6	7	13
		% 合計	46.2%	53.8%	100.0%

表3 2016年度教職インターンシップ参加学生の活動日数

度数

		インターンシップ実施日数(事後)						合計
		4	5	6	8	9	14	
学年	3年	0	1	1	3	0	1	6
	4年	2	0	0	1	4	0	7
合計		2	1	1	4	4	1	13

表4 2016年度教職インターンシップ参加学生の担当授業実施時数

度数

		インターンシップ実施時数(事後)								合計	
		8	10	13	16	17	21	24	29		45
学年	3年	1	1	1	0	1	0	2	0	0	6
	4年	0	0	0	2	0	1	1	2	1	7
合計		1	1	1	2	1	1	3	2	1	13

2 研究の方法

2016年の9月から11月にかけて、参加学生に対して事前および事後アンケート調査、指導いただいた高校教員には事後アンケート調査のみを実施した。調査内容については、平成17年10月中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」にて述べられている「あるべき教師像」を基に作成、教員として求められる資質・能力として次の項目を設定した。
[教員として求められる資質・能力の調査項目]

教師の仕事に対する使命感・教師の仕事に対する誇り・子どもに対する愛情・子どもに対する責任感・生徒指導力・集団指導の力・学校づくりの力・学習指導の力・授業づくりの力・教材解釈の力・豊かな人間性・豊かな社会性・常識・教養・礼儀作法をはじめとした対人関係能力・コミュニケーション能力などの人格的資質・教職員全体と同僚として協力していくこと 以上17項目

調査項目について、学生は5段階(5が最高値)で事前および事後アンケート調査において自己評価を行い、教職インターンシップが及ぼす効果を分析する。また、高校教員は同項目について学生の評価を5段階(5が最高値)で示し、学生の回答結果と比較、分析を行う。

3 回答者の所属と度数

本学商経学部 3年6名 4年7名 合計13名
高校教員(船橋市立船橋高校) 8名

4 結果

4-1 調査項目について学生による自己評価

上述した調査項目について、学生に対して実施した事前および事後アンケート調査の自己評価結果を表5に示す。

使命感や誇り、愛情、責任感など教員として必要とされる資質に関する項目は事前、事後ともに4ポイント以上と高い数値を示している。一方、具体的な指導に必要とされる能力の部分については事前、事後ともに2ポイント台と低い数値を示している。特徴的な内容として挙げられるのは、学年ごとの事前から事後への数値の変化である。各調査項目の平均値について、4年が1項目を除いて増加もしくは変化なしなのに対し、3年は12項目において数値が減少する結果となった。また、「子どもに対する責任感」については、両学年ともに数値が減少している。

4-2 調査項目について高校教員による評価

高校教員に対して実施した事後アンケート調査の学生評価結果を表6に示す。

高校教員による評価の総平均は2.985ポイントと、学生の自己評価より軒並み低い数値が示されている。しかし、「学習指導の力」「授業づくりの力」「教材解釈の力」、つまり授業力に直結する項目については3ポイント以上と、学生の自己評価(事後)よりも高い数値となっている。

4-3 学生および高校教員の自由記述

大きく「教職インターンシップの良かった点」「教職インターンシップの改善すべき点」の2つに分類し、さらにその下に「インターンシップでの学びについての意見」「学習指導についての意見」、そしてその2つの分類に入らない意見を「その他」と分類した。

4-3-1 学生の自由記述

4-3-1-1 教職インターンシップの良かった点

[インターンシップでの学びについての意見]

- 商業科教員のレベルの高いところで学べたこと。
- ジョブシャドウイングで教育実習では経験できなかったことを経験できたことです。具合的には公務分掌の仕事などです。
- 生徒とのコミュニケーションの取り方を実践を通して学べた。
- 先生方と話をして生徒に対する考えや工夫などを聞いて、ためになった。
- ジョブシャドウで教員にくっついて授業以外にどんなことをしているのか知ることができた。ほかにも生徒とコミュニケーションをすることで生徒とどう接すればいいのか、改めて感じることができた。
- 教育実習以外では経験できない「教師」を体験できて、実際の現場を見ることができたこと。
- 先生たちがどのように生徒と接するかのアドバイスも頂けたので、今後に活かせる。
- 先生方もジョブシャドウイングについて協力的で、見学するだけでなく実際に仕事を体験させてくださったり、仕事の詳細についても可能な限り見させていただいたりしました。質問にも丁寧に答えていただきました。

表5 教職インターンシップ前後での学生の自己分析比較

	事前			事後			事前・事後の差		
	3年平均	4年平均	学生平均	3年平均	4年平均	学生平均	3年平均	4年平均	全体平均
「教師の仕事に対する使命感」について、あなたの現状を教えてください。	4.500	4.571	4.538	4.333	4.714	4.538	-0.167	0.143	0.000
「教師の仕事に対する誇り」について、あなたの現状を教えてください。	4.667	4.429	4.538	4.500	4.714	4.615	-0.167	0.286	0.077
「子どもに対する愛情」について、あなたの現状を教えてください。	4.167	4.571	4.385	4.500	4.857	4.692	0.333	0.286	0.308
「子どもに対する責任感」について、あなたの現状を教えてください。	4.500	4.857	4.692	4.167	4.429	4.308	-0.333	-0.429	-0.385
「生徒指導力」について、あなたの現状を教えてください。	2.500	3.000	2.769	2.000	3.000	2.538	-0.500	0.000	-0.231
「集団指導の力」について、あなたの現状を教えてください。	2.500	3.000	2.769	2.500	3.143	2.846	0.000	0.143	0.077
「学級づくりの力」について、あなたの現状を教えてください。	2.000	2.429	2.231	2.000	2.429	2.231	0.000	0.000	0.000
「学習指導の力」について、あなたの現状を教えてください。	2.000	3.000	2.538	2.000	3.000	2.538	0.000	0.000	0.000
「授業づくりの力」について、あなたの現状を教えてください。	2.167	3.000	2.615	2.000	3.000	2.538	-0.167	0.000	-0.077
「教材解釈の力」について、あなたの現状を教えてください。	2.667	3.000	2.846	2.167	3.286	2.769	-0.500	0.286	-0.077
「豊かな人間性」について、あなたの現状を教えてください。	3.167	4.000	3.615	2.667	4.143	3.462	-0.500	0.143	-0.154
「豊かな社会性」について、あなたの現状を教えてください。	3.167	3.571	3.385	2.500	4.000	3.308	-0.667	0.429	-0.077
「常識」について、あなたの現状を教えてください。	3.667	3.857	3.769	3.000	4.000	3.538	-0.667	0.143	-0.231
「教養」について、あなたの現状を教えてください。	2.500	3.000	2.769	2.333	3.143	2.769	-0.167	0.143	0.000
「礼儀作法をはじめとした対人関係能力」について、あなたの現状を教えてください。	3.167	3.714	3.462	3.167	3.857	3.538	0.000	0.143	0.077
「コミュニケーション能力などの人格的資質」について、あなたの現状を教えてください。	3.167	3.429	3.308	2.833	4.000	3.462	-0.333	0.571	0.154
「教職員全体と同僚として協力していくこと」について、あなたの現状を教えてください。	3.500	4.143	3.846	3.333	4.571	4.000	-0.167	0.429	0.154

表6 教職インターンシップ後の高校教員と学生の評価比較

	事後				
	3年平均	4年平均	学生平均	教員平均	学生教員差
「教師の仕事に対する使命感」について、あなたの現状を教えてください。	4.333	4.714	4.538	3.125	-1.413
「教師の仕事に対する誇り」について、あなたの現状を教えてください。	4.500	4.714	4.615	3.250	-1.365
「子どもに対する愛情」について、あなたの現状を教えてください。	4.500	4.857	4.692	3.125	-1.567
「子どもに対する責任感」について、あなたの現状を教えてください。	4.167	4.429	4.308	3.125	-1.183
「生徒指導力」について、あなたの現状を教えてください。	2.000	3.000	2.538	2.625	0.087
「集団指導の力」について、あなたの現状を教えてください。	2.500	3.143	2.846	2.750	-0.096
「学級づくりの力」について、あなたの現状を教えてください。	2.000	2.429	2.231	2.375	0.144
「学習指導の力」について、あなたの現状を教えてください。	2.000	3.000	2.538	3.000	0.462
「授業づくりの力」について、あなたの現状を教えてください。	2.000	3.000	2.538	3.250	0.712
「教材解釈の力」について、あなたの現状を教えてください。	2.167	3.286	2.769	3.375	0.606
「豊かな人間性」について、あなたの現状を教えてください。	2.667	4.143	3.462	2.875	-0.587
「豊かな社会性」について、あなたの現状を教えてください。	2.500	4.000	3.308	2.875	-0.433
「常識」について、あなたの現状を教えてください。	3.000	4.000	3.538	3.125	-0.413
「教養」について、あなたの現状を教えてください。	2.333	3.143	2.769	2.875	0.106
「礼儀作法をはじめとした対人関係能力」について、あなたの現状を教えてください。	3.167	3.857	3.538	3.000	-0.538
「コミュニケーション能力などの人格的資質」について、あなたの現状を教えてください。	2.833	4.000	3.462	3.000	-0.462
「教職員全体と同僚として協力していくこと」について、あなたの現状を教えてください。	3.333	4.571	4.000	3.000	-1.000

[学習指導についての意見]

- 机間指導などを行なって生徒と関わることができた。
- 来年から自分も教える側になったら大丈夫かな、という不安もたくさん募りましたが、自分の知識の足りなさなど、(自分が)できないことをたくさん発見することができたからです。
- 少しだが生徒に教えることが出来た。
- 先生、生徒がスムーズに受け入れてくれたので、緊張も少し溶けて授業に集中することができた。
- 実際の授業を見学できるということが、最初に思いつくよかった点です。先生方の授業の進め方を含め、生徒の反応、やりとりなどから良い点、問題点などを見つけることができ、教育現場での課題なども感じることができました。
- 授業見学以外にも実際に教壇に立ち、生徒を目の当たりにするなど、大学ではできないことが多く経験できよかったと思います。
- 一番は、自分が高校時代に勉強しなかった科目の授業見学をすることができたことです。

[その他]

- 先生方と一緒に時間を過ごせたこと。
- 現場の教員から生の声を聞け、生徒とも触れ合えたこと。
- 生徒と近い距離で関わられたのは良かった。

4-3-1-2 教職インターンシップの改善すべき点

[インターンシップでの学びについての意見]

- 高校の先生もおっしゃっていましたが、ジョブシャドウイングにつく先生によってはどこまで見せてもいいものなのか困っている場面がありました。ボーダーラインを決めたほうがいいのかと思います。
- 授業をさせていただける形のジョブシャドウイングならとても意味があると思うが、授業体験がない形でのジョブシャドウイングはあまり意味がないように思える。

[学習指導についての意見]

- ジョブシャドウイングのほかにも授業見学を何回かさせてもらいたかったです。
- 受け持てる授業の種類が少なかった。

[その他]

- 学校の校則など学校独自のものを知りたかった。
- 先生によって対応が分かれているので、大学側と高校側で今後のインターンシップの方法を考えたほうが良いのかと思いました。
- もう少し期間がほしかったです。
- 大学の授業と高校の授業時間がなかなか合わないことです。大学での授業も多く、必修なども3限にあることが多いので見学したい授業に自分のインターンシップ参加を合わせることはできませんでした。

4-3-2 高校教員の自由記述

4-3-2-1 教職インターンシップの良かった点

[インターンシップでの学びについての意見]

- 授業以外の仕事を見せることができた。
- 学生が高校の雰囲気が分かったところ。
- 3年生にとっては教育実習前でのよい経験になったかと思います。経験したことで来年の教育実習に生かしてほしいと思います。4年生は、来年正規教員、講師になる方が多いと思いますので、授業などの用意の仕方などを身につけられたのではないかと思います。
- 将来、教員を志望している学生が、教員の働いている現場について、観察することができた点。
- 学生が教員の仕事を実感できたこと。
- 学生が教育実習の時期ではなく、今だからこそ見えてくる学校、生徒の状況、また4年生については本格的に来年度のイメージができるのがよい。3年生については、社会人としての常識、また学校、教職員としての振る舞いなどを経験できるのがよい。

[学習指導についての意見]

- (意見なし)

[その他]

- 教員自身が自分の仕事を客観視できたこと。
- 教諭や講師になる前の予行練習として、また学校側としても講師採用という視点において「欲しい人材」を探ことができ、この点はWINWINの関係であったと感じます。

4-3-2-2 教職インターンシップの改善すべき点

[インターンシップでの学びについての意見]

- 授業以外の仕事をもう少し体験できると良い。
- クラスでのホームルームにも参画させる機会を設け、生徒指導における実践力を育成させる機会を設ける。
- 4年生の学生には、HR、授業、部活動含めて学生に参加させられるところは多々あると思います。せっかくこの時期に学校現場に入っているのであれば、すべてにおいて、教諭と学生の判断で現場を経験させてあげたいと思いました。
- 午前中のみや午後のみが多く、学校の仕事を見るためには一日授業や仕事を見学させたほうがよいかと思います。
- もう少し、短い期間に一気にやるほうが効果は高いかなと思います。ジョブシャドウイングも、1週間くらいで午前3回、午後2回くらいやるほうがよいかと思いました。
- ジョブシャドウイングについては非常に良い体験だと思いますが、半日だとどうしても学校の全体が把握できないと思います。日数を減らしてもよいので、来るときは1日いると良い経験になるのではないかと思う。
- 実際には、朝から部活動の指導もおこなっていますし、授業の準備もしています。また、昼休みも食事の時間はわずかで、生徒対応をしています。放課後には部活動の指導をし

ながら、分掌の仕事など様々な業務を行っています。本当に教員を目指しているのだら、「実際の」「リアル」な業務状態を見せるべきかと思います。これだけのマルチタスクが求められる仕事として、「それでも、教員になりたいの?」と考えさせることも必要かと思います。やはり丸一日の実習をすべきです。"

[学習指導についての意見]

- 現場での即戦力育成のため、授業参観のみならず、実際に教科指導を行う機会を設ける。
- 3年生の授業補助も3週間くらいの間で、5回～8回くらい来校してもらうほうがよいかと思いました。
- 3年生は、まずは導入として授業など経験をさせてあげるのがよいかと思います。
- 実際に授業をやらせたい。半日の業務を見ても、進路を考える材料としては役に立たないのかと思います。

[その他]

- (意見なし)

5 考察

5-1 調査項目に対する学生の自己評価について

この調査の回答者が、学生13名、高校教員8名でしかなかったこと、また単年度での分析であることから考えて、本調査には限界があることを予め指摘しておく。

表5からわかるように、具体的な指導に関係する能力に対する学生の自己評価は高くない。これは学生側の自由記述にもあるように「大学でできないこと」であるためと考えられる。高校教員側の自由記述に学習指導について良い意見がなかったことも、このことを示している。一方、高校教員側から「教諭と学生の判断で現場を経験させてあげたい」「授業など経験させてあげるのがよい」「『実際の』『リアル』な業務状態を見せるべき」という意見があった。

上記の結果を受け、筆者たちは、次のような考えをもっている。具体的な指導に関係する体験活動をこれまでの学生生活の中で実施してきていないため、自己肯定感が低く、それが自己評価に影響を及ぼしていると考えられる。現在の本学の教育システムでは、学生に体験活動を通して自己肯定感を効果的に養成するのは困難であろう。しかし、高校現場では学生に対してさまざまな体験活動をさせたいという意向があることから、教職インターンシップのシステムに対して何らかの工夫をする必要があることがわかる。

5-2 事前・事後での自己評価の変化について

次に、早期に学生が持つ資質・能力と教員として求められる資質・能力とのギャップを縮めるための指導をすることが重要ではないかと考えられる。なぜかという、表5において3年の事前および事後の自己評価について、17項目中12項目で低くなっている。4年の低くなった項目が1項目のみであることを考えると、突出して多いことがわかる。3年と4年の大きな違いは、教育実習の経験の有無である。4年は教育実習において、自身の評価

を修正する取り組みが行われたため、教職インターンシップでは大きな変化はなかったと考えられる。

また表6において、高校教員と学生との評価を比較すると、「教師の仕事に対する使命感」「教師の仕事に対する誇り」「子どもに対する愛情」「子どもに対する責任感」「教職員全体と同僚として協力していくこと」の5項目において1ポイント以上のギャップが生じた。特にこの5項目は、高校教員側が学生の自己評価よりも低く評価していることから、学生が自身を過大評価していることがわかる。特に「コミュニケーション能力などの人格的資質」についても-0.462ポイントであることから、「教職員全体と同僚として協力していくこと」と合わせて、高校教員との対話が少ないことが伺える。

以上から、学生が対話等を取り入れた取り組みを多く設定し、これらの項目において学生自身を再評価できる機会を創出することが必要である。

6 今後の教育への提言

本学の学生に資質・能力を育む授業力を育成するために2つの提案を行う。

6-1 アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた活動を増やす

対話を多くし、コミュニケーション能力を高めるためには、授業形態をこれまでの一斉授業中心の受動的な授業の割合を減らし、主体的に調べたり、発表したりする能動的な授業の割合を増やす必要がある。ラーニングピラミッド(米National Training Laboratories)でも指摘されているように、平均学習定着率(Average Learning Retention Rates)は、講義は5%しかなく読書が10%、視聴覚が20%、デモンストレーションが30%、グループ討論が50%、自ら体験すると75%、他の人に教えると90%となっている。このピラミッドでは下に行くほどアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の要素が強まっており、相関関係が明瞭に顕れている。また文部科学省では、育成を目指す資質・能力を次の三つの柱で整理している。

- ① 何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)
- ② 理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養)

三つの柱より、資質・能力を育む授業力を育成するためには、座学によって得られる命題知だけでなく、行動によって獲得できる実践知の割合が高いと考えられることから、アクティブ・ラーニングの手法がより効果的であり、学生は教員として求められる資質・能力を内在化できるようになると考える。アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた活動として、一例を挙げる。本学では学部生が授業補助を行うSA(Student Assistant)制度を採用しているが、教職課程履修者はこれを毎semester必修とすることで、自身がSAとして何を補助できるのか、持ちうる知識・技能をどのように伝えるのか、SAでの経験をどのように教職に生かすのかを考える機会を創出できることから、日常的に学生自身の資質・能力が育まれ、授業力向上に貢献できると考える。

6-2 教職インターンシップ対象学年および期間を拡充する

筆者たちは、前項で述べたようにアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた取り組みを教職課程履修者に体験させることで、教員として求められる資質・能力を内在化できるように考えている。しかし、それを教員として確認できる機会は少なく、教職インターンシップであれば2回(3年および4年の各秋 Semester)しかないのが現状である。学生が授業力についてPDCAサイクルを回し、自身を再評価し続けていくためにはそれ相応の高校現場での機会創出が必要となる。そのためには、現行の教職インターンシップの対象学年および期間の拡充が不可欠である。本学教職課程の学びは1年秋 Semesterにて教職概論、教育原理という基礎科目を履修するところから始まるが、この2科目を履修し終えた2年春 Semester以降から毎学期、教職インターンシップをスタートできれば、卒業までに6回の機会を創出できる。学年によって実施内容の濃淡をつけ学生への過度な負担を与えないように配慮する必要はあるが、高校現場という非日常での指導機会が創出されることで、自身を再評価しやすくなるだけでなく、高校教員や生徒と授業等を通したコミュニケーションを図ることで学生のメタ認知が強化され、資質・能力を育む授業力を育成できると考える。

(2017.8.30 受稿, 2017.9.21 受理)

[抄 録]

中央教育審議会初等中等教育部会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(平成27年12月)より、「教員が多様な専門性を持つ人材等と連携・分担してチームとして職務を担うことにより、学校の教育力・組織力を向上させることが必要であり、その中心的役割を担う教員一人一人がスキルアップを図り、その役割に応じて活躍できるよう環境整備を図ることが重要」と答申された。本研究の目的は、教職インターンシップ参加学生および指導いただいた高等学校教員に実施したアンケート調査を通して、教職インターンシップ実施による資質・能力育成への効果を分析するとともに、資質・能力を育む授業力育成に関する提案することである。

本研究では教職インターンシップに参加した学生(3,4年生)と高校教員に、さまざまな資質や能力に関するアンケートを実施、分析を行った。その結果、学生の持つ資質や能力について、学生自身と高校教員とでは評価内容に違いがあることがわかった。

以上から、資質・能力を育む授業力育成のためにラーニングピラミッドでも指摘されているアクティブ・ラーニングの授業形態を教職課程において日常的に取り入れていくとともに、教職インターンシップ対象学年および期間の拡充することを提案する。

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology reported “It is necessary for teachers to cooperate with persons with diverse specialized expertise and to share their responsibilities as a team to improve the educational and organizational skills of the school, and each faculty member who plays a central role in it is important to improve the skills and to improve the environment so that they can play an active role according to their role”. The purpose of this research is to conduct a questionnaire survey conducted by students who participated in teaching job internships and senior high school teachers, analyze the effect on nurturing qualities and abilities, proposal on training of the ability to implement classes that foster qualities and abilities. In this research, we conducted questionnaires on various qualities and abilities for students and high school teachers who participated in teaching internships and analyzed them. As a result, the students themselves and the high school teachers found that there was a difference in the evaluation contents about the qualities and abilities of the students. In view of the above, in order to develop the ability to teach nurturing qualities and abilities, we propose to incorporate active and learning classes on a daily basis in teacher training courses and to expand teacher internship grades and periods.